



令和4年度
スポーツによる地域活性化・まちづくりコンテンツ創出等総合推進事業

別添報告書③

(4) スポーツツーリズム・ムーブメントの創出

ア 武道ツーリズム・ネットワークの強化及び施設データベースの利活用の推進

令和5年3月31日

Jtb Communication Design

株式会社JTBCコミュニケーションデザイン



武道ツーリズムの強化及び施設情報データベースの利活用の推進

本事業での実施事項

令和4年度の実施事項として以下①～⑥を提案し、事業を実施した。

1. 関係者が地域レベルで連携できる仕組みづくり・合意形成にむけた調査

- ✓ 個別ヒアリング調査と並行し、地域内での「合意形成」のためのグループインタビューも実施。
- ✓ これまでの調査で得られた事例をまとめ、他の地域の参考となる「事例集」を作成する。

提案①

深掘りのための
個別ヒアリング調査

提案②

グループ
インタビュー調査

提案③

武道ツーリズム
取組み事例集の
作成と公開

2. 地域関係者を含めた国内関係者の「ネットワーク構築・強化」

- ✓ 地域内の関係者のネットワーク構築に加え、地域をまたいだ関係者のネットワークも促進するため、令和3年度に開設した、Facebookグループに関係者を誘引する。
※熱量の高い方を優先し参加いただくため、当面の間「人」を介した認知拡大を試みる。

提案④

SNSの広報・グループページへの誘引強化

3. 武道施設データベースの利活用の検討と広報の実施

- ✓ 武道施設データベースについて具体的な利活用シーンを想定し、観光団体や旅行会社を対象とした利活用のための意見交換会を実施する。
- ✓ 武道施設データベース「利活用マニュアル」を作成し、オンライン上での広報を実施する。

提案⑤

観光団体・旅行事業者を対象とした
武道施設データベース利活用のため
の意見交換会

提案⑥

武道施設データベース
「利活用マニュアル」
の作成・公開



1. 関係者が地域レベルで連携できる仕組みづくり・合意形成にむけた調査

■提案①

深掘りのための個別ヒアリング調査

今後取り組む地域にとって参考となる先進事例の抽出を行うことを目的に、武道ツーリズムに取り組むあるいは、取り組む意向のある、道場・自治体・観光団体・事業者等へのヒアリング調査を通して、その取組みの先進性や課題、汎用性を顕在化した。

(1) 武道ツーリズム取り組み団体への個別ヒアリング調査

エリア	種別	自治体・団体・事業者
東京都	民間企業	日本航空
愛知県 名古屋市	推進団体	名古屋スポーツコミッション
京都府	旅行事業者	TABIKYO JAPAN
〃	〃	WAK ジャパン
宮崎県	自治体	宮崎県
沖縄県	推進団体	久米島文化協会
〃	民間企業	FMくめじま

(2) 武道ツーリズムに取り組む道場等への個別ヒアリング調査

エリア	武道関連施設・関連団体
東京都	合気道養神館本部道場
〃	全日本空手道連盟
横浜市	横浜武道館
岐阜県	半弓道場
広島市	弓道体験道場 射楽 SHA-RAKU
香川県	少林寺拳法連盟本部道場
宮崎県	日本武道宮崎（剣道）
沖縄県	吉本道場（古武道）



1. 関係者が地域レベルで連携できる仕組みづくり・合意形成にむけた調査

■提案①

深掘りのための個別ヒアリング調査

(1) 武道ツーリズム取り組み団体への個別ヒアリング調査

本調査によるヒアリング項目や設問の回答傾向を以下にて報告する。

<ヒアリング項目と回答の傾向報告>

大項目	設問	詳細
インバウンドの受入を始めた時期と背景	受入の時期	・早い施設で1970年ごろより
	取組の背景	・指導者との縁（指導者が海外で指導した際に感動し、日本でさらに指導を受けたいなど） ・旅行会社からの依頼 ・事業収益拡大
参加者について	国	欧米からの参加が多い。各武道とも欧米に道場が多く、指導者が指導に行くことが多いことが背景にある。
	武道レベル	・収益拡大を目的とした事業者は武道未経験者が多い。 ・指導者との縁により受け入れ始めた施設では中上級者が中心だが初心者も含めて幅広い層が参加。
	参加理由	・未経験者は武道に対する興味、施設の前を通りかかって興味を持ったというケースも見られる ・経験者は「本場での稽古」
	訪日における武道体験の位置づけ	・未経験者は「日本ならではの体験をしたい」 ・中上級者は「武道レベル向上」
提供している体験プログラムについて	内容	・収益拡大を目的とした事業者はレベル問わず共通 ・幅広い層を受入れている施設においては、レベルに合わせてプログラムを提供するケースが多い。
	時間と価格	・収益拡大を目的とした事業者は最短10分程度。 ・武道施設は60～120分程度
	インバウンド参加者とのコミュニケーション	・武道の精神を細かく伝える場合には通訳が必要だが、身振り手振りでも楽しんでもらえるという意見も聞かれた。 ・また翻訳機を使ってやり取りをしたという施設も見られた。
外国人を受け入れたメリットと課題	外国人受入れのメリット	・道場生にとって、外国人と触れ合う良い機会 ・武道に触れてもらう喜び ・見知らぬ体験参加者同士が楽しそうに話してくれている様子を見る喜び
	課題	・収益拡大を図る事業者においては認知度が低いこと ・武道施設においては指導者の負担増、受入ノウハウがないこと



1. 関係者が地域レベルで連携できる仕組みづくり・合意形成にむけた調査

■提案①

深掘りのための個別ヒアリング調査

(2) 武道ツーリズムに取り組む道場等への個別ヒアリング調査

本調査によるヒアリング項目や設問の回答傾向を以下にて報告する。

<ヒアリング項目と回答の傾向報告>

大項目	設問	詳細
武道ツーリズムに取り組み始めた時期と背景	取組開始時期	・2019年頃が多い。
	取組の背景	・“武道発祥の地であることを活かす”、“大会開催を通して可能性を感じた”、地域の観光資産と組み合わせることで、地域活性化につなげたいという思いを持った際に、スポーツ庁のモデル事業を知ったことがきっかけ
取組について	事業の形態	・自治体、観光協会、武道施設を中心とした連携だが、モデル事業への応募は民間事業者が主体となるケースと自治体が主体となるケースとが見られる。 ・いずれの場合も、スムーズな連携のため、中心となる主体が明確化されている。
造成した商品（体験プログラム）について	造成にあたり重視したこと	・武道とともに地域の魅力を感じてもらうこと。そのために、武道と観光や食などの資産との関連性（ストーリー性）を持った内容としている。
	内容	・創始者が訪れていた場所や神社など、ツアーの中心となる武道と関係性の高い場所を訪れる組み合わせ
	参加者に喜ばれた点	・指導者の丁寧な指導 ・高段者の演武は「本物を見ることができた」と喜ばれることが多い。 ・体験中に上達したと感じる「達成感」
武道ツーリズム推進のポイント	連携面	・指導者の協力取り付け。特に、本物を伝えることのできる指導者を確保することが必要であり、そこをクリアできると関連主体が同じ方向性を持って取り組みやすくなる ・また、関係者間の連携をスムーズに進めるためにも地域のことを良く知ったうえで、客観的に関係者の利害関係を判断できる事業者、コーディネーター等が主体となることが重要。
課題（商品造成まで至った地域）	武道ツーリズムに取り組むための課題	・指導者のスケジュール確保は多くの地域に共通する課題。特に急に参加希望があった際の対応の難しさが挙げられた。 ・インバウンドが増えた場合に、地域内の宿泊施設の少なさが課題という声も聞かれた。
	今後の取組み方向性	・地域における武道のこと、ツアーのことを知ってもらうためのプロモーション強化 ・武道とツアーで組み合わせる商品など、コンテンツのブラッシュアップ。特に、訪れる場所と武道との関連性を感じてもらうためのストーリー性を高めたいという声が聞かれた。



1. 関係者が地域レベルで連携できる仕組みづくり・合意形成にむけた調査

■提案②

グループインタビュー調査

グループインタビューを可能な限り、**スポーツ庁ご担当も同席の上実施することで、地域内関係者での合意形成のきっかけづくり**や、取組みを推進のための**建設的な意見交換の場を提供**した。
今年度は全3回、1時間30分程度で実施をした。

□グループインタビュー①

項目	内容	備考
日時	令和5年3月8日（水）14:00~15:30	
参加（五十音順）	<ul style="list-style-type: none"> 伊丹市観光部局 公益財団法人修武館 スポーツ庁 JTBコミュニケーションデザイン 矢野経済研究所 	
場所	オンライン形式 ※Zoomを利用	
ヒアリング項目 ※抜粋	<ul style="list-style-type: none"> 取組みの背景/取組内容紹介 参加者の動向 武道ツーリズムならではの難しさ、地域特有の難しさ その他課題・今後の展望・スポーツ庁への要望等 	※ヒアリング記録は別添資料にて報告

□インタビュー内容（抜粋）※詳細は別添資料にて報告

▶取組の背景等

- ・コロナ前でインバウンドが注目されるにあたり、インバウンドのブランド戦略が立ち上がった。
- ・武道（なぎなた）の聖地と、清酒製法を確立して発展してきた経緯を大事にしたい、インバウンドをターゲットとして取り組んだ。

▶コンテンツ造成にあたり

- ・インバウンド体験の街中道場で違う空間を感じられる空間として、“本物”の空間を重視した。
- ・伊丹市は全国的にも珍しく武道の授業が必須化となっており、伊丹市は唯一全中学校に薙刀を取り入れている。長期的には、薙刀を体験したことのある地域住民も含め市全体で連携したまちづくりを実施したい。

▶他事業者との連携

- ・体験型プログラムを提供する事業者へ依頼し、コンテンツの造成を実施した。
- ・具体的には、なぎなた体験と伊丹のお茶体験、清酒の祝い酒の加賀美開きの体験の3コンテンツを造成した。





1. 関係者が地域レベルで連携できる仕組みづくり・合意形成にむけた調査

■提案②

グループインタビュー調査

□グループインタビュー②

項目	内容	備考
日時	令和5年3月8日（水）16:00~17:30	
参加（五十音順）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 鳴門市スポーツ課NARUTOスポーツコミッション（2名） ・ スポーツ庁 ・ JTBコミュニケーションデザイン ・ 矢野経済研究所 	
場所	オンライン形式 ※Zoomを利用	
ヒアリング項目 ※抜粋	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取組みの背景/取組内容紹介 ・ 参加者の動向 ・ 武道ツーリズムならではの難しさ、地域特有の難しさ ・ その他課題・今後の展望・スポーツ庁への要望等 	※ヒアリング記録は別添資料にて報告

□インタビュー内容（抜粋）※詳細は別添資料にて報告

▶取組の背景等

- ・ 令和3年4月NARUTOスポーツコミッションを設立し、スポーツツーリズムを重点事業として採択した。
- ・ 武道ツーリズムはR3年4月の設立当初から推進している。
- ・ 鳴門市は、渦潮や、大塚国際美術館などの「見る」ものを中心とした観光に人気があり、これらにスポーツの体験を絡めたく考えた。

▶武道ツーリズム推進にあたり

- ・ 武道ツーリズム研究会を立ち上げ、武道体験の委託先、市内の観光事業者と繋がりを作った。鳴門市観光協会、観光振興課にも構成メンバーとして参加。
- ・ 武道ツーリズム研究会の中で、R3年度、R4年度に1回ずつ、モニターツアー（柔道、空手、少林寺拳法、合気道 多種目の体験）を実施した。
- ・ 課題として、各団体の受け入れ構築、道具等の準備に係る費用、通訳にあたるマニュアルの必要性等。

▶他事業者との連携

- ・ 武道ツーリズムの概念を説明し、賛同いただいた箇所に武道ツーリズム研究会に参加いただいた。協力いただいた道場数は、6種目7団体であった。





1. 関係者が地域レベルで連携できる仕組みづくり・合意形成にむけた調査

■提案②

グループインタビュー調査

□グループインタビュー③

項目	内容	備考
日時	令和5年3月29日（水）13:00~14:30	
参加（五十音順）	<ul style="list-style-type: none"> ・ 熊本県大津町:肥後おおづスポーツ文化コミッション ・ 宮崎県:ひなたMIYAZAKI武道ツーリズム推進協議会 ・ 宮崎県:観光推進課スポーツランド推進室 ・ JTBコミュニケーションデザイン ・ 矢野経済研究所 	
場所	オンライン形式 ※Zoomを利用	
ヒアリング項目 ※抜粋	<ul style="list-style-type: none"> ・ 取組みの背景/取組内容紹介 ・ 参加者の動向 ・ 武道ツーリズムならではの難しさ、地域特有の難しさ ・ その他課題・今後の展望・スポーツ庁への要望等 	※ヒアリング記録は別添資料にて報告

□インタビュー内容（抜粋）※詳細は別添資料にて報告

▶取組の背景等

【大津町】・インバウンドに対して町の資産の魅力周知を検討する中で、町内でも盛んな剣道を用い、観光客取り込み施策の一つとして武道ツーリズムの取組を始めることとなった。

【宮崎県】・2018年に剣道のフランス代表チームが宮崎県で合宿を希望して受け入れたことを契機とし、本格的に取り組みを開始。2019年にスポーツ庁、2020年に観光庁のモデル事業として採用されて取組を実施。

▶武道ツーリズム推進にあたる課題

【大津町】・高いレベルの指導者も多い一方、スケジュールの確保等の都合の課題もあり、協力してくれる指導者の確保に課題がある。

【宮崎県】・ガイドは、剣道経験者等、専門用語も訳せる通訳の必要性を感じる。仮に剣道家でない場合には、一度自身に体験してもらうなど、工夫が必要である。

▶今後に向けて

【大津町】・武道ツーリズムには、武道の精神や日本の文化を理解した通訳が必要だと思われるため、そうした点も含めて作り上げていく必要がある。

【宮崎県】・剣道メインで進めてきたが、それ以外の武道にどのように広げていくか。居合道や杖道に加え、都城市が大弓の生産日本一であるため弓道にも広げたい。





1. 関係者が地域レベルで連携できる仕組みづくり・合意形成にむけた調査

各種調査事業から得られた考察

【ターゲット層に応じたコンテンツの方向性】

ヒアリング調査を通して、武道の習熟度により、ターゲットのニーズ、およびそれに応えるコンテンツの方向性を区分して捉える必要があることを考察。ヒアリングを元に、以下のモデル化を可視化した。

訴求ターゲット	武道が主目的（高付加価値化）		裾野の拡大（一般化）
	武道コア層ファン	武道ライト層ファン （日本文化興味関心層）	一般観光客層 （≠武道ファン）
ターゲット像	特定の武道の鍛錬をライフワークとして行っている層	日本文化への興味関心やリスペクトがある層 ※単発で武道や競技に触れたことがある層	日本を観光地として選定したすべての層
ツーリズムへのスタンス	「武道」体験が訪日の目的である	武道が目的になっているわけではない	目的はさまざま ※「する」ことが目的ではない
ニーズ	・師範等からの指導体験（型の解説、人的交流）を求める ・流派の源流に触れる体験を求める（墓所・道場・聖地等）	・日本ならではの文化体験を行い、その世界観に触れたい ・日本での体験経験をSNS等でも発信したい	日本の食・観光・体験・ショッピングなど、ニーズも多岐にわたる
コンテンツの方向性	・最低1日～3日間程度の武道体験を主としたプログラム構成 ・付加価値的な価格設定	・日本や特定の地域を知る手段としての武道体験 （武道は茶道、華道と並列な関係）	・日本を訪問したら「武道」に触れるをキーワード化した訴求したい （「見る」コンテンツも重要）
代表的な実践例	沖縄県 Ageshio Japan	ワックジャパン TABIKYO JAPAN	半弓道場 沖縄観光コンベンションビューロー

【関係者の役割・意義・課題の整理】

ヒアリング調査を通して、地域のツーリズム推進のために、それぞれが必要とされている役割や課題を考察した。令和4年度の「合意形成」に向けては、これらを前提とすることが重要。

対象	武道ツーリズム推進に向けた役割	組織の意義	特有の課題
国	・地域振興のための政策の立案・実行 ・モデル事業の推進による優良事例の創出 ・マーケット調査やプロモーション	スポーツによる地域活性	各地域での取組モデル増加 自治体等への情報提供
自治体	・自治体単位での施策の展開、旗振り ・マーケット調査やプロモーション ・道場への協力依頼	資源の発掘による自地域の活性化	マーケティング戦略 中長期での推進計画立案 政策の旗振り
推進団体 ※DMO、観光協会等	・検討委員会の推進、各社の役割分担 ・商品化に向けた試行の実践	公共・民間のハブ機能、観光等の振興	地域の合意形成 選ばれるための理由づくり 政策実施の資金調達
旅行者 事業者	・国内、海外への誘客営業 ・道場と連携した顧客満足度の追究 ・予約管理、精算、各種調整手配業務	顧客満足度の創出、 マネタイズ	顧客（量・質）の拡大 業界知識・人脈の形成
道場	・見る、する、プログラムの提供 ・安全管理	普及（道場の発展）	人材育成を含む受入環境整備
連盟・統括団体等	・所属道場や流派への啓蒙	普及（プレゼンスの向上、すそ野の拡大）	普及を念頭においた商材化への理解

令和4年度のモデル事業では推進団体や旅行者事業者が推進役を担い、今後自発的な活動が期待される



1. 関係者が地域レベルで連携できる仕組みづくり・合意形成にむけた調査

■提案③

武道ツーリズム取組み事例集の作成と公開

令和3年度の個別ヒアリング調査時に、取り組みを推進したいという団体や事業者から、先行事例の取組やプログラムの内容を事例として把握したいという要望が多く聴取された。その声をうけ、令和4年度事業で調査対象となった取組み先の中で先進的な実践を行う事例を、事例集として取りまとめ、公開した。

※事例集については、別添資料にて参照。

■調査の中から事例集として掲載される対象（11件）

エリア	武道関連施設・関連団体
広島市	弓道体験道場 射楽 SHA-RAKU
香川県	少林寺拳法連盟本部道場
東京都	合気道養神館本部道場
横浜市	横浜武道館
京都府	有限会社ワックジャパン
岐阜県	半弓道場
京都府	株式会社TABIKYO JAPAN
沖縄県久米島町	琉球古武道ツーリズム（FM久米島、吉本道場、久米島文化協会）
宮崎県	日本武道宮崎
徳島県	NARUTOスポーツコミッション、鳴門市市民環境部スポーツ課
兵庫県伊丹市	修武館、兵庫県伊丹市

＜事例集の例＞

初めて見る方にもわかるよう、基本情報で取組みの背景に触れ、具体的なプログラムの内容や運営体制を可視化し、武道ツーリズムに取組みきっかけやヒントをもたらすことを意識した紙面を構成。

＜1. 基本情報＞
取組みの背景
武道との関連性

＜2. 具体的な取組み＞
造成した商品内容
造成時に重視した点
モデルツアーの取組み

＜3. 体制・運営情報＞
運営体制
運営上の課題

合気道養神館本部道場

〒760-0001 香川県高松市東通町4-17-15-2F
TEL.03-5371-6923
FAX.03-5371-6975
www.yodokan.net/

創始者の榎田三氏が
確立した実践的な技の
体験が魅力の合気道道場

体験可能な道場 香川県

参入時期 2010年以降

参入理由 地元外国人の増加

参入経路 地元外国人の増加

参入理由 地元外国人の増加

参入経路 地元外国人の増加

これが響かれます

・技をかけてみることを喜び、特に、実践的な課題を覚えてもらえることを喜びインバウンドが多い。

体験プログラムの内容

・体験参加人数が少人数の場合は門下生の後援の場を指定し、参加人数が多い場合は体験専用の時間を設定。料金は6,000円以下の設定。

① 礼儀作法
② 2人1組となる技の掛け合い
③ 料金は基本約1,600～2,000円（体験者専用の体験予約の場合は2,500～3,000円）

今後の課題

・組合の運営にはいろいろな役割がある中で、参加者から「もっと多くの技を覚えてみたい」と言われた。開催がないことも理由の一つなので、技が体験できるような機会を設けるためにも、体験者数を増やすことを検討中。

体験希望の際はこれをお知らせします

・参入が難しいこととある中で、運営体制、その間は人数と時間を教えてほしい。
・道場の質は出し切っていないので、参加者に技を体験できるまでであればOK！

合気道養神館本部道場

この道場は色んな技が体験できる。特に、実践的な課題を覚えてもらえることを喜びインバウンドが多い。

参入理由 地元外国人の増加

参入経路 地元外国人の増加

参入理由 地元外国人の増加

参入経路 地元外国人の増加



2. 地域関係者を含めた国内関係者の「ネットワーク構築・強化」

■提案④ & 提案⑥

SNSの広報・グループページへの誘引強化 武道施設データベース「利活用マニュアル」の作成・公開

国内関係者に向けた、武道ツーリズムにおけるスポーツ庁の取組みを紹介し、推進の機運を高めるために作成したパンフレットの記載情報を更新し事業の周知に努めた。また、その裏面に、SNSや、武道施設データベースの概要を掲載し、関係者への認知拡大、利活用の促進に努めた。

□パンフレット内容

表

裏

日本発祥の武道を活用した新たなツーリズムスタイル 『武道ツーリズム』とは

スポーツ庁では、スポーツの参加や観戦を目的として地域を訪れた、地域資源とスポーツが融合した観光を楽しむ「スポーツツーリズム」等を通じ、交流人口の拡大による地方創生・まちづくりを推進しております。

2018年度より、世界の関心が高い「武道」を活かした、希少性の高い「武道ツーリズム」を提唱し、2020年3月に「武道ツーリズム推進方針」を発表しました。

この推進方針では、目指すべき姿として「武道が日本発祥であることの国際的認知（プレゼンス）の向上」、「武道によるインバウンド訪客の促進と地域活性化」、「武道体験を通じたファン層等の拡大による日本の精神・文化の国内外への普及・発信」の3つを掲げております。

武道は、スポーツとしての側面を持ちながら、我が国固有の伝統文化・精神文化として、人間形成や郷土愛醸成に影響を与え、礼儀や和を重んじる日本人を育ててきました。こうした武道の精神は海外からも高く評価され、今や世界中に1億人を超える武道愛好家がいると言われています。

スポーツでは、日本の貴重な財産としての武道の価値を、まちづくり・地域活性化に活かしていくため、「武道ツーリズム」という新たな取組を始めています。しかしこの取組は、武道関係者をはじめ、自治体・スポーツ・商工・観光等の多くの関係者の協力無しに進めることは出来ません。

本調査や事業の取組みで収集した情報を基に、様々な武道ツーリズム施策を進めてまいります。いよいよと考えておりますので、皆さまのご理解・ご協力をどうぞ宜しくお願いいたします。

スポーツ庁長官 菅 義偉

【武道ツーリズムの可能性】⇒ 各種アンケート調査からも、世界各国からの強い期待・関心が伺えます

●日本で経験してみたい「スポーツツーリズム」(2017年度：海外7ヶ国別調査)
⇒他のスポーツと比較しても武道・大相撲のスコアが高い。

●期待する「武道」体験の内容 / 日本で武道体験をしたい理由 (2019年度：海外5ヶ国別調査)
⇒(期待する内容)「武道の文化・歴史や、精神文化の両方」が高く、「試合や練習の見学」、「簡易体験」等がこれに次ぐ。(したい理由)「日本文化・武道の精神文化に傾いた」が高く、日本ならではの希少性や、「楽しそう」等も多い。

◆デジタルを活用した情報発信等の取組みのご紹介

1.国内向け関係者の情報交換プラットフォーム
Facebookグループ「武道ツーリズムの輪を広げよう」

スポーツ庁では武道ツーリズムに取り組む関係者のネットワーク構築・強化するためのプラットフォームとして、Facebookにて、公開グループ「武道ツーリズムの輪を広げよう」を設立しました。

情報交換・発信の場として、ぜひ活用ください。※ご参加の際は、サイト内に掲載の「グループルール」を遵守ください。よろしくお願いいたします。

項目	内容
名称	武道ツーリズムの輪を広げよう
URL	https://www.facebook.com/groups/budo_tourism_wa
公開範囲	公開 ※誰もがメンバーと投稿を閲覧できます
開設日	2022年2月25日

Instagram「武道ツーリズム～Budo tourism～」

国内外の武道に関心がある層への情報発信を目的に、Instagramで「武道ツーリズム～Budo Tourism～」のアカウントを開設しました。Facebookと合わせてフォローください。よろしくお願いいたします。

項目	内容
名称	スポーツ庁 武道ツーリズム Budo Tourism
URL	https://www.instagram.com/budo_tourism_japansportsagency
開設日	2022年3月14日

2.武道施設データベース(事業者・自治体等向け)

武道ツーリズムの推進にあたって事業者等から「利用可能な施設がみつからない」「武道館や道場の情報が顕在化していない」といった課題があり、スポーツ庁ではこれらの要望に応えるために、2020年度の事業として「武道施設データベース」を制作しWeb上で公開しています。

武道施設の検索や武道ツーリズムのコンテンツ開発の際に、積極的にご活用ください。※掲載されている情報は、調査実施時のものとなりますので、検索の上で詳細については各施設にお問い合わせください。

項目	内容
名称	武道施設データベース
URL	https://budotourism-japan.com/db/
掲載施設件数	全国の武道施設1,868件を公開
機能	① 武道施設情報検索 ② 武道場地図 ③ 詳細データダウンロード

【武道ツーリズムに関する問合せ先】
スポーツ庁 参事官(地域振興担当) 村 地域振興係 Mail: stiki@mext.go.jp

□記載内容

- 武道ツーリズムとは
 - 長官のご挨拶、武道ツーリズムの概要、アンケート結果から見える可能性
- 情報発信の取組紹介
 - ①Facebookグループ「武道ツーリズムの輪を広げよう」の紹介 ※ご紹介ページを更新
 - ②Instagram「武道ツーリズム～Budo tourism～」 ※ご紹介ページの更新
- 武道施設データベース(事業者・自治体等向け)
 - データベースの利用方等紹介

3. 武道施設データベースの利活用の検討と広報の実施

■提案⑤

観光団体・旅行事業者を対象とした武道施設データベース 利活用のための意見交換会

コロナの入国規制緩和によるインバウンド増加の傾向が見込まれる中、武道ツーリズムにおいて取組み実績や知見のある事業者が集まり、関係者間での情報共有や共通課題の抽出、今後の連携等ができる機会を目的とした、ハイブリッド形式での意見交換会を開催した。

□当日の概要

項目	内容
実施日時	2023年3月14日（火） 13:30～16:00 リアル（JTBコミュニケーションデザイン内 会議室） オンライン（zoom）ハイブリッド形式
参加者	旅行事業者 ※ 7社8名の参加 <ul style="list-style-type: none"> • Ageshio Japan 株式会社（旅行事業者） • EXOトラベル・ジャパン株式会社（専門系ランドオペレーター） • 株式会社JTBグローバルマーケティング&トラベル（総合系ランドオペレーター） • Serendipity Pilot 合同会社（インバウンドコンサルティング） • 株式会社TABIKYO JAPAN（専門系ランドオペレーター） • BOJ株式会社（Beauty Of Japan）（専門系ランドオペレーター） • 有限会社ワックジャパン（専門系ランドオペレーター）
プログラム	1. 武道ツーリズムの取組み紹介（スポーツ庁より） 2. 当事業での取組み紹介（事務局より） 3. 各社取組紹介 4. 意見交換会 <ul style="list-style-type: none"> • 武道ツーリズムに関するこれまでの取組や実績例及び詳細 • 武道コンテンツ造成の経緯 • 武道ツーリズムに関する課題や将来の展望について • その他、自由討議（武道施設データベースのご紹介等）

□事前ヒアリング

参加者が他団体の取組を事前把握できるよう、また当日の進行の円滑化のため、武道ツーリズムに関する事前ヒアリングシートを作成し、取りまとめた内容を参加団体へ共有した。

【事前記入依頼事項】

- 武道ツーリズムに関するこれまでの取組や実績例
- 取組内容の詳細
- 武道ツーリズムに関する課題や将来の展望
- 本意見交換会で聞いてみたいこと

【事前ヒアリング入力シート】 武道ツーリズム意見交換会 企業名：●●●

恐れ入りますが、3月8日（水）17時迄に以下記載の上、ご返信をお願いいたします。
 返信先 JTBコミュニケーションデザイン 担当・藤森 アドレス ▶ fujimori5832@jtbcom.co.jp
※以下記載の項目に対する回答が示されている独自の資料等がございましたら、代替としての提出も可能です。

武道ツーリズムの今後の発展、調査データベースの利活用に向けた意見交換

3) 武道ツーリズムに関する課題や将来の展望について

■ 入国規制緩和に伴い、今後多くの訪日客が想定されますが、入国緩和に伴う環境の変化や具体的な施策、更に今後の武道ツーリズム発展に向けた課題や、将来の展望などについてお聞かせください。

ご記入をお願いします

4) 本意見交換会で聞いてみたいこと

■ 本意見交換会でご参加者様へお伺いしたい事項がございましたら、ご記入をお願いします。

ご記入をお願いします

<誓約事項>
本会議に関する秘密情報を第三者への許可無(発表、公開、漏洩、利用しない)を誓約いたします。

3. 武道施設データベースの利活用の検討と広報の実施

■提案⑤

観光団体・旅行事業者を対象とした武道施設データベース 利活用のための意見交換会

□意見交換内容（抜粋）

▶コロナ禍の動向・戻り状況について

- ・令和4年秋にコロナの規制緩和がされてから、お問合せ及び予約数が増えている。
- ・一部事業者では、急激な予約増加に伴い、予約受付を一時停止し、R5年春からの受付を予定している。
- ・インバウンドの団体予約や受け入れも開始し、コロナ前の状況に戻りつつある。

▶プログラム内容について

- ・コア層は、長期滞在する傾向もあり、専門の流派や道場を定めて利用する方も多い。
- ・旅行会社に問い合わせが入るライト層に対しては、「日本らしさ」の体験の一つとして、旅行会社からの提案を元に利用する人も多い印象。
- ・ライト層向けのコンテンツ（侍ショーや、忍者劇等）は家族連れに根強く人気がある。
- ・ライト層では特に、「する」体験だと長時間となってしまうため、「見る」体験を利用される方が多い。「する」体験に注力したい一報、先生や道場との調整につき、安定供給に課題がある

▶受入れ環境について

- ・体験プログラムの場合、道場の先生の都合や、ガイドの手配等、安定供給に課題がある。また、種目によっては、道場の受け入れ母数が少ない現状。
- ・インバウンドが戻りつつある中、プログラム内容によっては、未だコロナの影響を受けているコンテンツもある現状。（例：相撲の朝稽古鑑賞等は海事法できる稽古に限りがある）
- ・体験するお客様の来日目的（流派やレベル感のニーズ）、協力いただく先生の意向が大事になるため、想いをくみ取って提案ができるエージェントの重要性。
- ・武道の場合、専門用語も多く、言葉の背景や想いを踏まえて適切に訳すことのできる通訳の確保に課題がある。武道のプログラムにも対応できる、ガイドの養成も重要。また、通訳へのガイドシナリオは必要である。
- ・武道の「聖地」となっているような地域では、海外から住み込んで長期的に地域に滞在する例もあり、ガイド/通訳を依頼することもある。

▶価格設定について

- ・体験プログラムを作成する際には、一流の先生に加え、タクシー等、アテンド、通訳を含めると、価格が上がる傾向にある。
- ・潜在する武道の専門用語にも対応できる通訳ガイドに対しては、協力したくなるような価格設定とする必要があるとも感じる。
- ・協力いただく道場の先生へ謝金としてのお支払いには、目安となる規程があると良いと感じる。

□当日の様子

